

『アフリカ研究』執筆要領

(2017.3 改正)

(2021.5 改正)

(2024.7 改正)

(2026.1 改正)

I. 原稿の準備

1. 投稿前に本執筆要領を十分確認の上原稿を作成すること。執筆要領に従っていない原稿は、却下する場合がある。
2. 投稿は電子ファイルのみとし、紙媒体での投稿はできない。
3. 原稿本文は、学会ウェブサイトにあるテンプレートファイル(Microsoft Wordフォーマット)を用いて、横書き40字×20行の設定で作成し、ページ数を入れる(以下、このファイルを「本文ファイル」という)。査読はダブルブラインドとなるため、著者情報、謝辞などは本文ファイルには含めない。なお、Microsoft Wordが使えない場合は、互換性のあるフォーマットでの投稿も認める。
4. 本文ファイルには、以下の項目をこの順番で含めるものとする。(1)論文タイトル、(2)本文、(3)参考文献、(4)和文要旨、(5)英文要旨、(6)表、(7)図キャプション、(8)図(投稿時はファイル中に貼り付ける)、(9)注。なお、(4)と(5)は、論文と研究ノートのみ、(6)～(9)は該当する場合のみで、(4)以降はそれぞれページを改める。(8)の図は、投稿時には画面上で内容が分かる解像度であればよい。印刷用の高解像度のファイルは原稿採択時に事務局へ送付することとする。
5. 図表を含む原稿の分量が投稿規程に適っている必要がある。図表は小(刷り上がり誌面の1/8頁)＝約300字、中(1/2頁)＝約1200字、大(1頁)＝約2400字分と換算する。
6. 著者情報と謝辞については、学会ウェブサイトにある投稿フォームに記入する(このフォームは査読者には送られない)。なお、論文採択時に、著者情報や謝辞に変更がある場合は、最終原稿送付の際に投稿フォームの更新版を一緒に提出する(提出がない場合は、投稿時の情報が誌面に掲載される)。
7. 本文ファイルと投稿フォームの2つを、『アフリカ研究』の最新号または学会ウェブサイトに記された編集委員会のメールアドレスに送付する。しばらくしても受け取ったとの連絡が来ない場合は必ず問い合わせること。

II. 全体を通じた留意事項

1. 文章は、原則として常用漢字、現代かなづかい、アラビア数字を使用し、平明な表現を心がけること。
2. 句読点は「、」「。」を用いる(いずれも全角)。ただし、前後が欧文の場合は半角の「,」「.」を用いる。アラビア数字およびアルファベットは和文中でも半角を用いる。
3. 用語、固有名詞等の表記の統一に留意すること。
4. 項目の区分は以下の通りとする。なお、「はじめに」、「序」、「結び」、「結論」などには項目

数字を振らない。

1. 第1階層

1.1. 第2階層

1.1.1. 第3階層

1.1.1.1. 第4階層

文章中の列挙は、(1)、(2)、(3)、……を用いる。

5. 年は西暦を使用する。特別の暦法による暦を使用する場合には西暦年を[]で付記する。

III. 注, 文献の表記

1. 注は必要最低限とし、文末に一括して掲げる。注の番号は、一字分の肩にnのかたちでいれる。

[例] 農業振興策⁵は、……である⁶。

2. 文献情報は原則として本文中で行い、注には回さない。

[例] ×……とスミスは言っている¹。(本文)

1 Smith (1990: 20–21). (注)

○……とスミスは言っている(Smith 1990: 20–21)。(本文)

3. 本文および注で文献に言及するときは、「(著者姓 刊行年)」の形式とし(間には半角スペースを入れ、コンマは不要)、必要に応じて参照ページ、図・式の番号等を入れる(その場合、年に続いて半角コロン＋半角スペースを入れる)。複数の文献を列挙する場合は、刊行年の順とし、半角セミコロン＋半角スペースで区切る。なお、欧文文献の著者名も、本文中(括弧の外)では、できるだけカタカナにすることが望ましい(ただしカタカナ表記が適当でない場合はこの限りではない)。「拙稿」「ibid.」等は使わない。

[例] ・著者名を括弧の外に出す場合

今西(1974)は……

今西(1974: 26)は……

クライン(Klein 1987: 16, sec. 13.5)は……

・著者名も括弧内に含める場合

……ということがしばしば起こる(鹿野 1982; McAndrew 1989)。

……という説もあるが(McAndrew 1989: 14)、ここでは……

4. 本文および注で言及する資料が複数著(編)者の場合は、2人までは全員の名前を出す。2人の場合、日本語では「・」(文中では「と」も可)、英語では「and」で併記する。3人以上は最初の1名以下は、「ほか」、「et al.」とする。

[例] ……と言われている(森・風間 1976; 森ほか 1987)。

コリンズとワートマスター(Collins and Wortmaster 1953)は……

ジプルスキーほか(Zipursky et al. 1959)によれば……

……という(Zipursky et al. 1959)。

5. 同一著者の複数の文献に言及する場合

[例] 今西(1978; 1980)は.....
.....とされている(今西 1978; 1980)。
(Keller 1896a; 1896b; 1907)
(Garcia 1941: 45–49; 1944: 105)

6. 著(編)者名が付いてない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。機関名が長い場合、本文、注の中では略号、略称を用いてもよい。ただしリストでは正式名称が分かるようにしておくこと。

[例]
WARDA(1996)(本文)

WARDA (West Africa Rice Development Association) (1996) “Tooling Up for Inland Valley Development,” *WARDA Annual Report 1996*, Bouake, WARDA, pp. 39–43. (参考文献リスト)

7. 上で示した文献参照方式が困難な場合は、注に文献情報を記載する方式を認める。

IV. 参考文献

1. 参考文献リストは本文の後に一括して作成する。文献の配列は著者姓のアルファベット順または五十音順とする。日本語文献と外国語文献、また史料、インターネット上の資料の別など、文献を分けて表示してもよい。
2. 同一著者の文献が複数ある場合は、出版年の若い順に並べ、また同一著者の文献が同一年に複数ある場合には、文献タイトルのアルファベット順または五十音順に並べる。雑誌掲載論文、単行書所収論文の場合は、掲載ページも入れる。なお、英語文献については、タイトルのキャピタリゼーションをおこない、等位接続詞(than、till、whenなど)と前置詞以外の単語の語頭は大文字とすること。

[例1] 日本語文献

佐藤章(2001a)「コートディヴォワールにおける換金作物生産と一党制成立過程—PDCI の組織化戦略と『脱プランター化』」高根務編『アフリカの政治経済変動と農村社会』アジア経済研究所、pp. 139–183.

佐藤章(2001b)「第 2 共和制の不安な船出—コートディヴォワールの民政移管と排外主義」『アフリカレポート』32: 3–8.

高柳俊一・松本宣郎 編(2009)『キリスト教の歴史2—宗教改革以降』山川出版社.

田川玄(2005)「民俗の時間から近代国家の空間へ」福井勝義編『社会化される生態資源』京都大学学術出版会、pp. 295–320.

ペルヴィエ、ギー(2012)『アルジェリア戦争—フランスの植民地支配と民族の解放』渡邊祥子訳、白水社.

吉田光邦(1973)『やきもの』日本放送出版協会.

[例2] 英語文献

Lipton, Michael and Merle Lipton (1993) “Creating Rural Livelihoods: Some Lessons for South Africa from Experience Elsewhere,” *World Development*

21 (9): 1515–1548.

McClure, Arthur F., James Riley Chrisman, and Mock Perry (1985) *Education for Work: The Historical Evolution of Vocational and Distributive Education in America*, New Jersey, Associated University Press.

Mayer, Philip (1980) “The Origin and Decline of Two Rural Resistance Ideologies,” in Philip Mayer (ed.), *Black Villagers in an Industrial Society: Anthropological Perspectives on Labour Migration in South Africa*, Cape Town, Oxford University Press, pp. 1–80.

Paris, Roland (2002a) “International Peacebuilding and the ‘Mission Civilisatrice’,” *Review of International Studies* 28 (4): 637–656.

Paris, Roland (2002b) “Peacebuilding in Central America: Reproducing the Sources of Conflict?” *International Peacekeeping* 9 (4): 39–68.

[例3] インターネット検索資料

CSCW (Centre for the Study of Civil War) (2005) “Armed Conflict, Version 3-2005b,” (<http://www.prio.no/cwp/armedconflict/>) (2006年4月2日閲覧).

3. 上に示した記載法を取りにくい資料の場合も、著者名、出版時期、タイトル、出版地、出版元などに関する情報を可能な範囲で記し、一覧とすること。
4. 本文を英語で執筆する場合、日本語の参考文献・資料等の表記については、著(編)者名をローマ字表記にし、論文タイトル・書籍名を英語に翻訳した後、「(in Japanese)」と表記する。日本語文献に英語要旨が付記されている場合は「(in Japanese with English abstract)」と表記する。出版地、出版社名もローマ字表記もしくは英語名で表記する。最後に著(編)者名および論文タイトル・書籍名のみ日本語を付記する。下記の例を参照のこと。

[例]

Sugawara, Kazuyoshi (2015) *A Phenomenology of the Hunting/Hunted Experiences: Corporeal Syntony and Metamorphosis among the Bushmen* (in Japanese), Kyoto, Kyoto University Press. 菅原和孝『狩り狩られる経験の現象学: ブッシュマンの感応と変身』

5. 日本語またはラテン文字を使わない言語の文献の場合は、原則としてラテン文字で転記した文献情報、または英語等に翻訳した文献情報を掲載する(文献リストでの順番は英語文献に準ずる)。末尾にオリジナルの表記を掲載してもよい(ただし、特殊な文字の場合は印刷できない場合がある)。

V. 図表の作成について

1. 図表のそれぞれに通し番号を付し(地図や写真は図として連続の番号とする)、表題をつける。また必ず出所を明記すること(使用許諾が必要なものは、著者の責任で許諾を取る)。自分で作成したものは「出所: 著者作成」と書く。
2. 図表中に数値データを示す場合は必ず単位を明記すること。

3. 図表は最終的にモノクロで印刷されるため、その点に留意して作成すること。グラフなどの塗りとは色ではなく、パターンで区別できるようにするのが望ましい。
4. 図は、投稿時には本文ファイルへの貼り付けでよいが、採択が決定したら、Jpeg、Tiff等の一般的な画像フォーマットで、1図を1ファイルとして提出すること。その際、印刷に十分な解像度である必要がある。図の表題や出所等の説明はこの画像ファイルには含めず、原稿本文ファイル内の「図キャプション」にリストすること。
5. 表はWordの作表機能を用いて作成し、本文ファイルの末尾に表ごとにページを変えて入れること。

[例]

表4. ゴールドコーストの教育統計(1880～1940年)

年	政府の教育支出		小学校数*	就学数		
	伝道団体への補助金 (ポンド)	合計 (ポンド)		男子(人)	女子(人)	合計(人)
1880**	425	1,325	139			5,000
1901	3,706	6,543	135	9,859	2,159	12,018
1919	6,157	54,442	213	22,718	4,600	27,318
1926	30,887	179,000	234	26,039	6,899	32,839
1930		117,135	340	32,224	9,693	41,917
1940			467	46,631	15,201	61,832

* 小学校数は、公立または政府の補助金を受けているものに限る。

** 1880年の数値は推計。また、1887年の教育令の前は、政府の補助金制度がなかったため、全ての学校が含まれている。

出所: McWilliam and Kwamena-Poh 1975: 141–142.